

日本イギリス児童文学会中部支部

2018年度 春の例会案内

日時：2018年4月22日（日） 13：00～17：20（12：30開場）

場所：中京大学 名古屋キャンパス（名古屋市昭和区八事本町101-2）

0号館（センタービル）* 6階 0605教室

*地下鉄「八事」5番出口を出てすぐの建物が0号館（センタービル）です

プログラム

- 12：30～ 受付開始
- 13：00～13：05 開会あいさつ 支部長 戸田山 みどり 会員（八戸工業高等専門学校）
- 13：05～13：45 研究発表1 クマイ 恭子 会員
（名古屋大学大学院 国際言語文化研究科後期課程、南山大学非常勤講師）
「生きるための受容と手放し-*A Monster Calls*におけるコナーの「影」に起因するトラウマの緩和とモンスターの機能-
- 13：55～14：35 研究発表2 渡辺 美樹 会員（名古屋大学 人文研究科）
「*The Graveyard Book*を読む-サイラスの役割について-
- 14：45～15：10 総会
- 15：20～17：20 講演会 小野 賢一 先生（愛知大学 文学部）
「12世紀のプランタジネット朝と教会」
- 18：00～ 懇親会 「みやび家」(<http://miyabi-ya.jp/access/index.html>)

研究発表1 クマイ 恭子 会員

（名古屋大学大学院 国際言語文化研究科後期課程、南山大学非常勤講師）

「生きるための受容と手放し-*A Monster Calls*におけるコナーの「影」に起因するトラウマの緩和とモンスターの機能-

*A Monster Calls*は、主人公である13歳の少年コナー（Conor）による母親の死の受容と手放し、自らの「影」の統合によるトラウマ緩和の物語である。コナーには末期ガンで死にゆく母親がいる。コナーは母親に生きて欲しいと切実に願う。同時に期待だけにすぎない日々を終わらせたいと（つまり母の死を）願うが、その「影」の部分を抑圧する。コナーは「影」の存在を否定するが、常に「影」に起因するトラウマと自責の念が付きまとう。本発表ではコナーの手放しによる、影から派生したトラウマ緩和までの経緯、およびコナーが生き延びることを可能にしたモンスターの機能に光をあて分析する。

研究発表2 渡辺 美樹 会員 (名古屋大学 人文研究科)

「The Graveyard Book を読むーサイラスの役割についてー」

カーネギー賞とニューベリー賞とを受賞した Neil Gaiman の *The Graveyard Book* (2008) では、Silas と呼ばれる吸血鬼が後見人として主人公 Nobody Owens (通称 Bod) の成長に深く関わってきている。吸血鬼としての前非を悔いて生者と死者との境界を守護する Honour Guard になったサイラスは、主人公を Honour Guard にへと導いていく役割を果たしている。主人公は禁止を破るという行為を通して成長していき、成長の証として自分の家である墓地や幽霊の両親を失わざるを得なくなり、サイラス同様に故郷喪失者となって旅に出かけることで、この物語は閉じる。本発表では、どのようにサイラスが主人公に影響を与えてきたのかを検証することで、主人公ボッドが生まれる前から予言されていた人生を送ることになっていくのかを明らかにしたい。

講演 小野 賢一 先生 (愛知大学 文学部)

「12世紀のプランタジネット朝と教会」

リチャード獅子心王は、イギリスの国王として知られるが、フランス語を使って生活を送っていたのはなぜだろうか。ジョン欠地王は、暴君として描かれることが多い。父のヘンリー2世と兄のリチャードも教会から税金を巻き上げるという点ではジョンと変わらぬ暴君であったのに、なぜジョンだけ評判がよくないのだろうか。以上のような問題を、本報告では、最新の実証研究の成果に基づき、プランタジネット朝の社会構造の分析から読み解いていく。

事務局からのお願い

- 例会会場には公共の交通機関を使ってお越しくください。
- 飲み物は各自でご用意ください。
- 春の例会終了後に、懇親会 (会費 4,500 円 ドリンク代込) を予定しています。会場予約の都合上、懇親会のご出席は、4月13日 (金) までに、事務局までお知らせください。またようお願い申し上げます。多くの方々の懇親会へのご参加をお待ちしております。